



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 35 《谷浦博之先生》 ◆看護師さんのページ NO. 15 《景山咲子さん》
- ◆地域からの活動報告《雲南》 ◆高校生向けの取り組み
- ◆医学生・若手医師向けの取り組み ◆地域医療支援コーディネータ養成 NO. 2



NO. 35

社会医療法人石州会 六日市病院

病院長 谷浦 博之



皆様、はじめまして。六日市病院長の谷浦と申します。この機関紙の読者の皆様の中には、六日市病院がどこにあるかさえわからない方もいらっしゃるかと思いますので、この機会に病院の紹介をしたいと思います。

まず、自己紹介です。私は愛媛県大洲市の出身ですが、島根医科大学の2期生として、昭和58年に卒業し、その後、母校の第2外科教室に入局いたしました。当時、新設大学病院は県内に研修先がありませんでした。九州の福岡県にある飯塚病院で約3年間の研修後、母校に戻り、大学病院や県内の病院にて数年間勤務した後、平成8年より、当六日市病院に勤務しております。

六日市病院のある、鹿足郡吉賀町は人口7000人の、大学のある出雲市からは遠く離れた（車で約3時間半）西南部に位置しております。広島県と山口県の県境に接する町で、すぐ近くに中国自動車道が通っておりますので、そのおかげで、広島市内まで約1時間、山口市内まで約1時間、福岡県博多まで約2時間で行くことができます。



六日市病院全景

当院は一般病床60床、医療療養病床180床、介護療養病床39床、合計279床にて運営しております。常勤医師は6名、そのうち当直を行っている医師は私を含めて4名です。少ない人数ではありますが、島根大学などから非常勤医師派遣や当直医師の応援をしてもらいながら、楽しく日々の診療を行っております。

当院の特徴としては、周囲約1時間の距離内に他の病院がないため、すべての疾患の初期治療を担当しなければならぬということ。そ

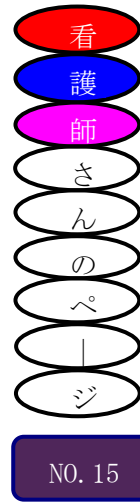
してトリアージの後、当院で診ることのできない患者さんは、1時間以上離れた高次機能病院に紹介しなければなりません。大変ではありますが、地域の救急患者さんを診ることが「地域医療の根幹」と考えておりますので、救急対応をしなければならぬ患者さんの処置に関する技術と知識の習得には良い場所と考えております。ただ、私自身は消化器外科出身で、他の医師も、経験豊富な救命医ではありません。そこで当院では、AHA（アメリカ心臓協会）の研修



AHAの研修の様子

定期的な研修に開催して、すべての医師や多くの医療スタッフ。が世界標準の技術と知識を当地域の患者さんに提供できるように日々トレーニングを行います。このような病院、地域に興味のある医師ならびに看護師、他医療スタッフの皆さん。仲間になりませんか。お待ちしております。

お問い合わせ▽事務部長 小川まで
☎0856(77) 1581
「ホームページ」
<http://www.iwami.or.jp/mhp.com/>



奥出雲町立奥出雲病院

総看護師長 景山 咲子

皆様はじめまして。私の働く病院は、中国山地の山懐に抱かれた158床の急性



期十療養型の町立病院です。病院では10月17日に迫った『第5回病院祭』に向けて、準備をしています。地域の病院として住民の皆様、病院を身近に感じて頂く為に始まったこの病院祭ですが、前回から職員も一緒に楽しむ雰囲気になつてきました。当日はみんな私服で参加し、たくさんのパネルや展示等、各部署が趣向を凝らします。看護部の喫茶コーナーには手作りパンやクッキー、

和菓子等が並び、抹茶席では着物姿の職員や浴衣を着た子供達による接待があり、お茶を飲みながら地域の皆様との会話も弾みます。恒例『うちの保健室』には医師を始め、技術系、事務系の職員にも応援を依頼します。今年は新築移転十周年なので、内容を吟味している最中です。

さて、当院も多くの自治体病院と同様、厳しい状況での病院運営をしており、特に医師不足は深刻です。看護師不足も慢性化しており、看護師の平均年齢は40歳、産休・育休も常に一割程度あるので、現場のマンパワー不足は一向に改善されません。その中で入院基本料10対1を維持する為の看護体制の変更を企画し、工程表に沿って実施しています。今は移行期なので煩雑ですが、きつと3年後には、この看護体制が安定するはず・・・と思っている所です。

ストレスの多い毎日、擦り切れない為のヒントは「仕事を楽しむ姿勢」です。当院の医療安全委員会では5年前から年に1〜2回参加型の、要因分析研修会をしています。実際のインシデント事例を元に職員が寸劇をし、多職種でグループワークをし、対策立案をします。又医療安全標語を募集し、優秀作品にはイラスト

トを描き、一枚のポスターとして1カ月交替で各部署に掲示し、医療安全意識の高揚に効果をあげています。



医療安全標語のポスター

感染委員会をはじめ、各種委員会の活動も活発で、緩和ケア委員会も今年から『がんサロン』を立ち上げたところで、地域住民を巻き込んだ今後の発展が期待されます。

最近、看護職養成機関の某先生と話す機会があり、看護師不足の現状を話すと「奥出雲病院は底力があるから！」との言葉、とても嬉しく感じました。職員一人一人の底力で支えられている奥出雲病院、**医師・看護師 募集中!**です。風光明媚な高台に位置し、電子カルテも導入8年目を迎え、職域を越えたチームワークの良さが強みです。ぜひ一度病院見学においで下さい。職員一同お待ちしております。



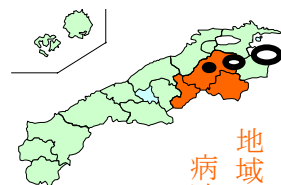
雲南

地域からの活動報告

地域住民と協働による
病院づくりを目指して

公立雲南総合病院

石原 忍



雲南市を中心に展開されている、地域医療

を守る自主活動について紹介します。医師不足を中心に大変厳しい状況に直面している公立雲南総合病院を、地域の住民が支えて行こうという思いから、昨年、「がんばれ雲南病院市民の会（雲南市大東町を中心とする組織）」「雲南病院を支えよう市民の会（雲南市加茂町を中心とする組織）」が設立されました。この会ではこれまで、病院との意見交換、病院勤務医による講演会等を開催し、病院の実情や勤務医の実態について、住民側の理解を求める活動などを行っていただいております。また、積極的に地域住民が病院に参画している医療機関の視察を合同で行うなど、住民側の関わり方や病院側の受入れ方についても、お互いに学ぶことも始まっています。この住民組織ができたことにより、これまであまり住民との接点が無かった病院関係者が、少

しずつ地域と触れ合えるようになり、大きな一歩を踏み出すことができ、大変ありがたく思っています。

このような活動を契機に、念願の「病院ボランティアの会」が本年5月に結成されました。この会でも、住民組織の方々を中心となり輪が拡がり、現在20名を超す皆さんにご登録いただき、職員といっしょに、病院周辺の美化活動や、イベント開催時の準備などの活動を行っています。また、9月1日から開所した院内保育所（ほたるキッズ）ですが、その開所に向けてもボランティアの皆さんと職員が一致協力して準備を進めてきました。

この他にも、平成18年から年1回、住民対象の「地域医療シンポジウム」（雲南地域医療を考える会主催）を開催し、医療を取り巻く厳しい実情を訴えながら、住民と共に今後の地域医療のあり方について考えていく取り組みを行っています。シンポジウムの参加者からは、「医療現場の実情が聞けて良かった」、「自分も医療に携わる職に就きたいと思った」、「今後も是非続けて欲しい」などの意見を寄せていただいています。

このように、様々な団体が地域医療を守る活動を始めていただいでい



第4回雲南の地域医療を考えるシンポジウムの様子(雲南市大東町 平成21年7月開催)

ます。病院としても、今後、積極的に地域に出て行き、住民の意見をしっかりと受け止め、「地域住民と協働による病院づくり」、「地域に選ばれる病院」を目指して行きたいと思っています。

高校生向けの取り組み

医師不足が深刻な問題となる中、将来医師等を目指す生徒を増やそう！と、進路選択の時期となる高校生を対象に、地域医療や医療現場の仕事内容についての理解を深めるた

めの事業を実施しています。

一つは、平成18年度から夏季と春季の年2回実施している「高校生医療現場体験セミナー」。



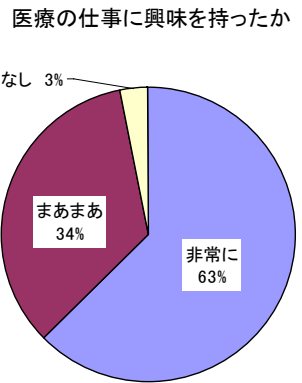
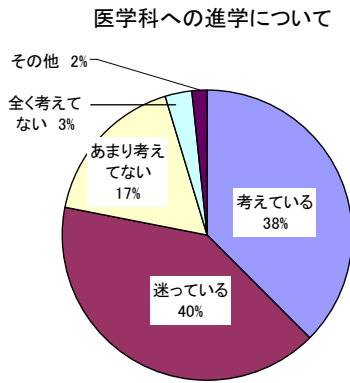
高校生医療現場体験セミナーの様子

今夏は、隠岐病院、公立雲南総合病院、大田市立病院と共催で開催し、高校1年から3年までの43名の生徒が参加しました。各病院では、趣向を凝らした内容が用意され、生徒達は、医師、看護師、検査技師の方達から、仕事の魅力や大変さなどをじかに感じ、「プライドを持って生き生きと仕事をされている」、「医療への興味がさらに湧いた」など率直な感想がたくさんありました。

もう一つは、「夢実現進学チャレンジセミナー」。これは、医学部や難関

理系大学進学を目指す高校2年生を対象にした3泊4日の勉強合宿で、県教育委員会「しまね学力向上プロジェクト」の一環として、今年初めての開催。合宿3日目には、島根大医学部で手術部の見学や縫合手技の体験、現役医師からの体験談などを通し、医療に携わる魅力や醍醐味を見て・聴いて・感じてもらい、進路目標の一つとしてイメージしてもらおうものです。

夢実現進学チャレンジセミナー参加者 67名に聞きました!!



地域医療に携ることへの意欲を持った若者が一人でも多く育ってくださることを願い取り組んでいます。

【医療対策課 藤井】

医学生・若手医師向けの
取り組み

医学生や研修医等の県内定着を目指した取り組みとして、今夏実施した事業を報告します。

「医学生地域医療実習」は、医学生を対象に、離島や中山間地へ泊りがけで

行き、地域を実際に肌で感じ、島根の地域医療の魅力を学んでもらうものです。県内の保健所の

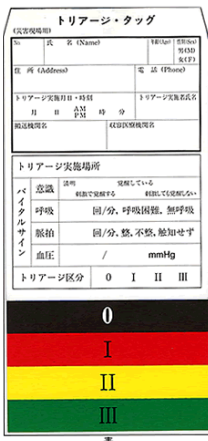


医学生地域医療実習の意見交換会終了後の懇親会

ディネートにより、訪問診療や救急外来の実習、地域の福祉施設の見学など、多彩なプログラムが用意されています。今回は27名が参加し、地域医療の理解を深めました。最終日の意見交換会では、「地域住民に安心を与えられる医師になりたい」「地域医療の実態に触れ、モチベーションが上がった」などの声がありました。

「若手医師ステップアップ研究会」は、研修医、医学生や指導医など約50名が参加。第一部は、筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターの小林裕幸先生の講演で、「日本で求められるジェネラリストの魅力とは」がテーマ。家庭医など、地域で初期治療を担う医師の養成の状況について問題提起をされました。第二部では「いざという時に役立つ災害医療の基礎知識」がテーマ。島大附属病院救急部の畑倫明先生を講師に、出雲市駅前での災害をイメージしたトリアージの実践研修が行われました。

【医療対策課 藤井】



研修で学んだトリアージ・タグ →

地域医療支援

コーディネータ養成

8月31日より、新メンバーが加わり4名で、地域医療実習8週間が始まりました。前半4週は島根大学附属病院で、後半は県内の病院・診療所、保健所、老人保健福祉施設などで、地域医療の現場を実際に見学し、必要な知識とノウハウを修得するというものです。



病院実習では、医療現場で懸命に働く職員の姿、仕事に対する熱い思いや、地域医療を支える医師の養成が行われている現場を直接目にする事ができました。卒業後臨床研修センターでは、2年目の研修医と座談会（写真）があり、「研修先を選ぶきっかけは○○先生がいるから」など、彼らの輝いている目が印象的でした。地域医療支援コーディネータの役割を模索しながらの毎日です。

【吉田】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県医療対策課医師確保対策室

TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryouta@pref.shimane.lg.jp

ホームページ：<http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/>

